

「看護学における学際性」に関する学術文献の分析

伊志嶺美香¹⁾、富田美加²⁾

¹⁾ 洛和会音羽病院、²⁾ 茨城県立医療大学

【はじめに】看護学が対象とする世界は、社会との関係性の中で時代と共に変遷し、複雑な様相を呈してきている。このような中、看護学における研究では、学際性という概念が重要な位置づけをもって出現し、今後の発展が期待されている。

【目的】看護学における学際的研究の動向を通じて、看護学における学際性の位置づけの一端を明らかにする。

【方法】書誌データベースは、JDream II の JSTPlus+JMEDPlus+JST7580（以下 JD II）及び医中誌 Web Ver.5（以下医中誌）を使用した。

【結果】JD II 及び医中誌による文献検索の結果、文献の総数は 221 件であり、重複する文献を統合した結果は 189 件であった。

論文タイトル中に使用されている単語に関する頻度分析では、「看護学」「学際的」「高齢者」「ケア」「新しい」「学際的研究」「チームアプローチ」「研究」「課題」「発展」「学際的アプローチ」の順に頻度が高かった。

収載誌に関する頻度分析では、「インターナショナルナーシングレビュー」「日本看護科学学会学術集会講演集」「学際研究」「看護研究」「臨床看護」「日本看護研究学会雑誌」「日本看護科学会誌」の順に頻度が高かった。

【考察】発行年別文献数や論文タイトル中における学際関連用語の年次推移から、学際的研究に関する文献数は増加傾向にあった。このことから、看護学において学際性への関心が高まっていることや、今後もさらに学際的研究が活発になされていくことが推測される。

論文タイトルの単語頻度分析と収載誌名の頻度分析の結果からは、看護学において学際的研究が行われていることがうかがえる。しかし今回の研究では、特定の他の学問領域との学際的なつながりまでは確認できなかった。

一方、「チームアプローチ」「学際的アプローチ」という語の出現頻度が高く、学際性という概念を加味しつつ多職種による“チーム”に焦点を当てた研究が多い。このことから、看護学における他学問分野との関係性では、特に臨床現場での協働による学際的研究の重要性が高まっているといえる。また、学際性を表す用語はチーム医療と同義で使用されている可能性もあり、新しい考え方である学際性の解釈が著者によって異なることが示唆された。